

AIで詐欺電話検知

県警とNTT東 家族に連絡 実証実験

県警とNTT東日本が人工知能（AI）を活用し、詐欺グループからの電話を検知し、家族や近隣住民に注意を呼びかける実証実験を入間市で行った。詐欺被害のきつかけとなりやすい固定電話への対策を強化し、被害防止への体制づくりを目指す。

「事故を起してしまい、医療費で500万円必要」。7月27日午後、同市の久礼亮平さん（74）宅の固定電話に、息子を名乗る男から電話があった。これは県警と同社が行った実証実験で、

電話を受けた固定電話機に設置したAI搭載のアダプターが電話の内容から詐欺と検知。NTTのシステムが事前に登録した家族や近隣住民、銀行などの連絡先に自動で電話をかけ、「家族に確認を取るなど注意して」「近隣で詐欺と思われる電話が発生」などと注意を促した。

このような実証実験は、25～28日の4日間、市内8世帯の固定電話にアダプターを設置し行われた。実験中に実際の詐欺の予兆電話はなかったが、県警が実演

した詐欺の電話では、受け手の家族が2分ほどで心配する電話をかけてきたという。県警とNTTは結果を踏まえ、実用化に向けてシステムの改良などを検討する。

県警は、今年に入り7月31日までに725件（暫定値）の特殊詐欺被害を確認しており、前年同期を25件上回っている。今後とも詐欺の電話は続くとみられ、徳村忠・地域安全対策推進室長は「官民で連携した防止策を普及していきたい」と話している。

『読売新聞』2023年8月2日付0面